

保育かながわ

発行所
横浜市神奈川区沢渡4の2
一般社団法人
神奈川県保育会
発行人
萩原敬三
題字
故内山岩太郎筆

平成三十年四月二十一日、神奈川県社会福祉会館で行われました。

第一会場では関東ブロック研究テーマ「保育者の資質向上を図る」に沿って横須賀市保育会保育研究委員会と海老名市公立保育園園長代理研究会の二者が研究発表を行いました。

横須賀市保育会保育研究委員会は園内研修における人材育成OJTの実施・保育者の資質向上・保育士等キャリアアップ研修を見据えて「と題して発表を行いました。横須賀市保育会では、平成二十九年度から私立保育所二園、公立保育所二園、行政保育担当職員一名のメンバーコンサルタント構成で保育所研究委員会を発足しました。研究目的を、「保育士の資質向上」とし、

奈川県社会福祉会館で行われました。

第一会場では関東ブロック研究テーマ「保育者の資質向上を図る」に沿って横須賀市保育会保育研究委員会と海老名市公立保育園園長代理研究会の二者が研究発表を行いました。

年間五～六回委員会を実施するよう計画をされたそうです。
今年度より民間保育園では保育士の専門性を高めるためのキャリアアップ制度が導入されたこともあり職務を任命された職員は都道府県認定のキャリアアップ研修を受講する事が義務付けられる事になりました。

年間五～六回委員会を実施する者は研修受講の義務はないことから外部研修に頼るだけでなくそれぞれの施設の園内研修として副園長、主任のスキルアップに取り組む研修の具體について協議をされたそうです。研修の進め方としては保育所・認定こども園のいわゆるナンバー二の立場(副園長、主任)のリーダーシップの育成・

向上を図ることを狙いとして、ナンバー二(副園長)がナンバー三(次世代リーダー)保育者をターゲットに定め、PDCAサイクル人材育成フォーマットを活用し、ミーティングや対話などを通してOJT研修を実践したそうです。また実践園が集まり、上手くいっている所・難しいところなど現状の進捗状況や研修者の気づきについて情報交換しながら対応など学びを共有されたそうです。

OJT人材育成の良い点としては、各園で運営や保育方針などの違い、それぞれの役職業務がある中、OJTはそれぞれの園に合わせて行う事が出来る。またPDCAサイクルの実践を繰り返し行う事で保育園全体のスキルアップにつながっていくなどがあげられます。このOJT人材育成の実践を通しての様々な学びを基盤に一人ひとりの資質向上のために出発する事を継続していく事が重要と感じました。質疑



すでに副園長、主任になつてい



応答のなかでOJTとは何か、
と言う質問がありました。

「オン ザ ジョブ トレーニング」の略で上司が後輩に対する具体的な仕事の中で資質や態度を意図的、計画的に身に付けられるように促す仕組みのことだそうです。



続いて海老名市公立保育園長代理研究会では、～保育者の悩みから見えてきたもの～と題して発表を行いました。保育者は子どもの人格形成のうえで、とても影響の大きな存在であることから保育者の資質

浦正明氏にアドバイスをいただきながら研究を進められたそうです。アンケートの実施から保育者が悩んでいることになら「アドバイス集」を作成し少しでも悩み踏み込んで参考となる「アドバイス集」を作成し少しでも悩みを解決できるようにされたそうです。保育者自身もストレスを抱え込まないよう相談できる相手がいることが大切で、資質向上のために最も必要だと思う項目で一番多かったことがコミュニケーション力だったことから園内研修として①良いところ探しではグループ内で職員のそれぞれの良いところを

向上はとても大切であり、まず保育者の意識調査からはじめようと様々な角度でアンケート調査をして保育者の現状や悩みを知り、さらに掘り下げて組んだそうです。それに際して

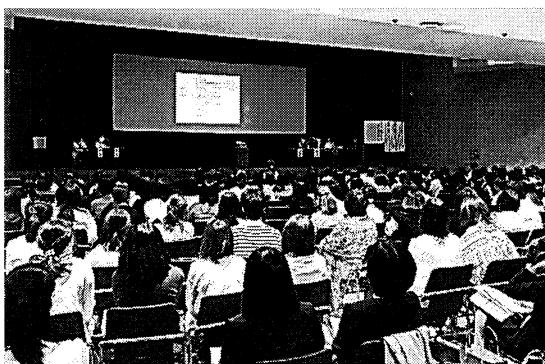
メモに記入して全員の見えるところに貼り、朝礼などで紹介をしたそうです。その結果、色々な発見があり職場のコミュニケーションが増えたそうです。二ケース検討としては、保育の一場面を皆で考え、それ

に高め合い、より良くコミュニケーションが大切です。そして保育者も悩みを一人で抱え込まないで相談できるコミュニケーションの取りやすい環境の中で、子どもたちが笑顔で過ごせる環境を維持することが大切だと感じました。

結びに議長の先生より、保育者は環境としての役割が大きいからこそ、日頃から笑顔・思いやり・感謝のこころを持つことが大切であるとの感想を式典でご来賓としてご挨拶をされた平野健次先生のお言葉を振り返られたことが印象に残りました。

とに意義があり、悩みを共有し合えたこと、子どもの最善の利益のためにディスカッショングループが保育の質の向上につながったそうです。保育者一人ひとりの保育観は違い、意見の食い違いはあっても子ども

第一会場では、「公立保育所
公立認定こども園等の使命と
地域社会での役割」という研究
テーマに沿って、藤沢市、平塚
市、厚木市の三団体から発表が
行われました。会場となつた講
堂は、ほぼ満席となり参加者の



「藤沢市子ども・子育て支援事業計画」において、すべての子育て家庭が安心して子育てができるよう、地域における子育て支援のネットワーク作りを進めているとのことです。

ツトワークづくりを進める」との必要性を理解するとともに、地域社会での公立保育園による子育て支援の充実が求められていると改めて感じました。次に平塚市公立保育園の3園の園長先生により「～発達支援コーディネーターが担う役割～」というテーマで、障がい児や配慮が必要な子どもに対しての子どもたちに過ごしやすくなる支援を行うと同時に、すべての子どもたちに過ごしやすい地域における子育て支援の充実化を目指すことを確認しました。

保育士が意見を出し、実りある
ケース検討会議になつていて
いう報告がとても参考にな
りました。

と八十七の保育関係施設があり、公立保育園が基幹保育所として地域保育所等との連携などを積極的に行うことで、コ－ディネーターとしての役割を担っています。基幹保育所では、

ディネーターとしての意識が芽生え、責任を持つて対応していくように感じられます。また専任の保育士が配置されることがとも安定した対応に繋がっています。この発表で、

保育の実施、また子育て支援センターとの連携により地域における子育て支援の充実を図る様子がよく分かりました。市では保育所整備計画（ガイドライン）を作成し、公立保育所の

い環境を提供するために、保育士を「発達支援コーディネーター」として育成し、公立保育園や認定こども園の備えるべき専門性の強化への取り組みについて説明がありました。平塚

育園のうち五園の公立保育園で実施している園庭開放や、一時預かり事業、親子教室などを通して、地域の子育て家庭に保育園を知つてもらうことや、民間保育園との交流により地域のつながりを深めていく取り組みについて、研究発表がありました。厚木市の公立保育園の情報誌「いっしょにあそぼう」では、給食の献立やレシピ、簡単なおもちゃ作りの紹介など、身近な記事や保育所の紹介な



「きたくなる保育所」というテーマで、厚木市保育内容研究会の先生方の発表がありました。

はたくさんの方に役立つことを目標に、地域社会における公的保育園の役割や子育て支援の充実を求めていることを再度確認することができました。公立保育園は、地域社会の中で身近な存在としてその特性を活かし役割を發揮していくしかなければならないと改めて考えさせられる発表でした。

三市の先生方、ありがとうございました。

もらえるなどの楽しい企画もありました。また他の民間保育園との交流を進めることで遊びの充実や子ども同士の繋がりが広がり、五歳児では就学への期待が高まるなど交流の先

平成三十年七月三十日より
二日間千葉県千葉市幕張メッセ
で行われました。初日は、清水
こども園寺島瑞穂氏による
オープニングアトラクション
で始まりました。地域や保護者
の方々から「子育て中のいろいろ
な気持ちに共感できる」と好
評を受けており、「とても親しみや
く優しさのある心地よい時
間を過ごしました。

いよいよ開式です。保育研究
大会運営委員長の圓藤弘典氏
のあいさつがありました。その後
に今回参加者と「花のおさな
ぎ」者唱、保育関係物故者への
黙祷、児童憲章朗読。主催者で
ある千葉県より、千葉県知事、
関東ブロック保育協議会会長
からのあいさつの後、来賓者か
らの祝辞がありました。基調講

演を東京大学名誉教授・日本保
育学会会長である沢見稔幸氏
より「二十一世紀型の保育・教
育で大切なこと～新指針の理
念を具体化する～」という演題
でお話して頂きました。少しの
時間休憩し、記念講演を明治大
学文学部教授諸富祥彦氏より
「人と人のつながりから質の
高い保育が生まれる」という演
題でお話して頂きました。最初
から席を立ち、周りの参加者と
のコミュニケーションを多く取
る機会があつたため情報交
換もすることが出来ました。

最後に次回当番県あいさつ
が開催地であります埼玉県保
育協議会より行われました。
二日目は、分科会です。第二

平成三十年七月三十日より
二日間千葉県千葉市幕張メッセ
で行われました。初日は、清水
こども園寺島瑞穂氏による
オープニングアトラクション
で始まりました。地域や保護者
の方々から「子育て中のいろいろ
な気持ちに共感できる」と好
評を受けており、「とても親しみや
く優しさのある心地よい時
間を過ごしました。

いよいよ開式です。保育研究
大会運営委員長の圓藤弘典氏
のあいさつがありました。その後
に今回参加者と「花のおさな
ぎ」者唱、保育関係物故者への
黙祷、児童憲章朗読。主催者で
ある千葉県より、千葉県知事、
関東ブロック保育協議会会長
からのあいさつの後、来賓者か
らの祝辞がありました。基調講

第五十九回関東ブロック保育研究大会



育研究大会（千葉県幕張メッセ）にて、発表させて頂きました。
第三分科会では「保育者の資質向上を図る」というテーマでした
たが、新保育所保育指針第五章では、職員の資質向上を図るよ
う努めなければならぬとさ
れ、キャリアパス研修が導入さ
れる中、関心も深く二百名以上
の参加がありました。

DCAサイクル」「人材育成フ
ォーマット」を活用した、研修
としてのミーティングや対話、
話し込みを繰り返しました。対
象者自身の強み、弱みを自己分
析・客観視し、「P D C A」を
見える化することで課題が明
確になり、保育リーダーとして
の役割を認識することができます。
また、育成者側からは、
具体的な事例をあげアドバイ
スすることで、対象者の気づき
が多くなり人材育成に対しても
の取り組みが前向きになります
した。そして、職員間のコミュニ
ケーションや保育士の指導
方法などの見直し、新たな改善
点が発生しP D C Aサイクル
を繰り返す必要性を感じまし
た。他の代表三市も保育実践等
を通した園内研修の充実を図

「発表を終えて」

第五十九回関東ブロック保

いよいよ開式です。保育研究
大会運営委員長の圓藤弘典氏
のあいさつがありました。その後
に今回参加者と「花のおさな
ぎ」者唱、保育関係物故者への
黙祷、児童憲章朗読。主催者で
ある千葉県より、千葉県知事、
関東ブロック保育協議会会長
からのあいさつの後、来賓者か
らの祝辞がありました。基調講

から席を立ち、周りの参加者と
のコミュニケーションを多く取
る機会があつたため情報交
換もすることが出来ました。
最後に次回当番県あいさつ
が開催地であります埼玉県保
育協議会より行われました。
二日目は、分科会です。第二

分科会「保育者の資質向上を図
る」に参加しました。神奈川県
は、千葉方式というものがあり
ます。各分科会が終了後、閉会いたしました。

今回の開催地である千葉県
には、千葉方式というものが有
ります。今までにないやり方で参加
者を魅了していました。第4分
科会では、神奈川県を代表して、
梅原正美氏が議長として参加
しました。各分科会が終了後、
閉会いたしました。

私たちの今回の研修にあた
つては、民間・公立園園長・行
政からの担当係長の五名で研
究委員会を立ち上げ、一年余り
を費やし各職場における人材
育成の実態を情報共有する中、
保育士等キャリアパス研修を

踏まえ、主任保育士・次世代リ
ーダーをターゲットとして人
材育成を目的に「O J T の実践
研修」を重ねてまいりました。
園長・副園長・主任と協力し「P
D C Aサイクル」「人材育成フ
ォーマット」を活用した、研修
としてのミーティングや対話、
話し込みを繰り返しました。対
象者自身の強み、弱みを自己分
析・客観視し、「P D C A」を
見える化することで課題が明
確になり、保育リーダーとして
の役割を認識することができます。
また、育成者側からは、
具体的な事例をあげアドバイ
スすることで、対象者の気づき
が多くなり人材育成に対しても
の取り組みが前向きになります
した。そして、職員間のコミュニ
ケーションや保育士の指導
方法などの見直し、新たな改善
点が発生しP D C Aサイクル
を繰り返す必要性を感じまし
た。他の代表三市も保育実践等
を通した園内研修の充実を図

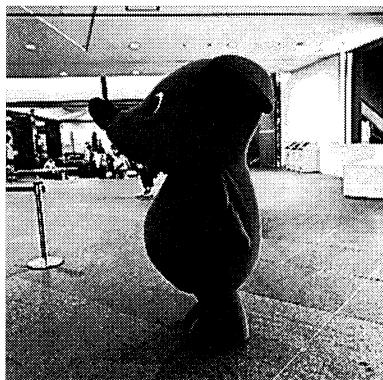
られており、「保育の見える化」「職員間の対話・話し込みにおける共通認識」等が保育者の資質向上につながる重要な課題であると発表されていました。四市それぞれに異なる研究実践でしたが、保育者の資質向上を目標としたとても参考になる内容でした。

今回の研究発表は千葉方式という事で、発表ごとに参加者が気づきや学びをフィードバックシートに記入し、それをも

対話的・応答的な研修体制で、楽しく内容の充実したものでした。午後からは助言者である大妻女子大学教授岡健先生より発表の講評があり、各園内研修が充実・実践できるよう多くのアドバイスを頂きました。

最後に研究を通して学んだことを活かし、子ども達の豊か

「保育環境を考える



平成三十年九月二十一日厚
木市保健福祉センターに於いて保育環境を考える、子どもの遊び研修会①が開催されました。この研修は、神奈川県の「キヤリアアップ研修(保育実践分野)」に該当します。

し楽しめるよう構成され、初歩的な運動遊びから発展性のある遊びへと展開し、互いに共感し熱中できる環境へと向かいます。安田式体育遊びの中で育む力は、「共感力・模倣力・觀察力・発見力・判断力・対応力」です。子どもの遊びは、想定外。子どもは、楽しいからこそ熱中。

二ケーション能力を奪つてしまふので、応答的な関わり、情緒の絆が深まるように心掛けることが肝要です。

講義後は実技です。二人組になりタッチ遊び。簡単な動きから変化のつけ方次第で遊びは、どんどん展開します。次は、四人組になり一人ずつ動いてい

運動遊び・体育遊びの時には、危険なことはしないという約束はするが、基本、楽しく取り組めること、楽しいという事はここころが楽（ラク）でないといけない。「習うより慣れよ」繰り返し、繰り返し楽しむ仕組みが大事。この理論でスキップや縄跳びや跳び箱が出来るよう

的・応答的な研修体制で、
く内容の充実したもので
。午後からは助言者である
女子大学教授岡健先生よ
表の講評があり、各園内研
究実・実践できるよう多く
ドバイスを頂きました。
後に研究を通して学んだ
を活かし、子ども達の豊か
木市保健福祉センターに於い
て保育環境を考える、子どもの
遊び研修会①が開催されました。
この研修は、神奈川県の「キ
ヤリアップ研修(保育実践分
野)」に該当します。

今回は、講師に安田式体育遊
び研究所の居関竜彦氏を迎え、
し楽しめるよう構成され、初歩
的な運動遊びから発展性のあ
る遊びへと展開し、互いに共感
し熱中できる環境へと向かい
ます。安田式体育遊びの中で育
む力は、「共感力・模倣力・観
察力・発見力・判断力・対応力」
です。子どもの遊びは、想定外、
子どもは、楽しいからこそ熱中

二ケーション能力を奪つてしまふので、応答的な関わり、情緒の絆が深まるように心掛けることが肝要です。

講義後は実技です。二人組になりタッチ遊び。簡単な動きから変化のつけ方次第で遊びは、どんどん展開します。次は、四人組になり一人ずつ動いてい

運動遊び・体育遊びの時には、危険なことはしないという約束はするが、基本、楽しく取り組めること、楽しいという事はここころが楽（ラク）でないといけない。「習うより慣れよ」繰り返し、繰り返し楽しむ仕組みが大事。この理論でスキップや縄跳びや跳び箱が出来るよう

ホールの中は笑顔と活気で溢れていました。

者は、嬉しそうに楽しそうに、子どもたちに見せればいい。また、クラスにいる気になる子も、集団の中に巻き込んで、その子

十五分休憩後、また十五分の実技。先程の四人で電車になり、色々なバリエーションを紹介ジャンケン陣取り合戦。これも

みのない心と身体を育むために
にというテーマで講義と実技
を行いました。当日は、生憎の
雨となりましたが定員百名の
所百二十名の参加があり、講師
の方の熱気が参加者こ云わり

る多様な動きを幅広く獲得する大切な時期です。自分の身体が思うように動かせるワクワク、ドキドキ感。自分もやつてみたいというキラキラした瞳。そんな愛で掛けて私をうち保育

ハイタツチで喜び共感し合うのです。どのグループも次々と展開される遊びに、笑顔と共に正に子どものように、懸命に身体を動かし大きな歓声を上げ、三十分間ハハ干を流しました。

年齢・発達に応じた安田式体育遊び指導法の理論と実践を基

し、楽しいからこそ育っていく
この乳幼児期は生涯にわたつ

く形と一緒に動く形で遊びは広がります。動きの最後は、必

子どもは、楽しいからこそ熱中です。子どもの遊びは、想定外。

どんどん展開します。次は、四人組になり一人ずつ動いてい

が大事。この理論でスキップや
縄跳びや跳び箱が出来るよう

になつていくのです。実践経過についての話では、子どもの心拍数に合つた正に動きたくなる声掛けが必須。心と身体の力みを取る動作は「走る、転がる、ぶら下がる、飛び跳ねる、渡る、登る」事です。子どもたちを並ばせ過ぎない、座らせ過ぎない、説明し過ぎないこと。興味関心を持たせ、楽しく体験し、これなら出来そうという体感を持ち、出来たといふことで体得をしていく、この流れが大事。そこには仲間を応援すると高揚感が出てより頑張りたくなるという集団ならではの仕組みがある。自分の保育園にある遊具の把握をしているか、しっかりと把握をした上で目的を持つて遊びの計画を立てる事。その遊具での活動中に説教はしない。全員終わつた所で、上手な子を見せ、そこで何が違うのかを伝えるのがベストです。十五分ほど身体を動かす中

でハイタッチでの多彩な遊びを教えて頂きました。

運動・体育遊びは考え方で伝え理解して身体を動かし、視覚、聴覚に訴え記憶に残つていくもの。ジグザググリレーや普通のリレーも時々反対周りをして脳を刺激させましょう。子どもやりたい気持ちと共感が大事である」と熱中すること

の楽しさと気持ち良さを子どもも保育者も思えるような遊びを是非普段の保育に取り入れて欲しい。

質問タイムは、研修会が閉められた後も、居関氏の元にて積極的に行われていました。キャラアップ該当者は、レポートるものやりたい気持ちと共感が記入後受講証明書を受け取り終了となりました。

苦情解決の取り組みでは、「怒りの中身」を知り、怒りをしゃやすいのは、自然なこと、私たちのような対人援助の仕事をしている限り、「ストレス」は避けて通れない問題ということで、誰もが自然とメンタルヘルスを崩しやすい状況にあります。当日は、キャリアアップ(マネジメント分野)対象研修ということもあり、多数の参加となりました。

保育士のストレス研究では、ストレス因は、保育ではなく環境にあり、ストレスをどう捉えるかが重要であるとお話ししました。臨床心理士としての菊池亜衣子先生の講演は、受講された先生たちにも、自分に置き換えて考えられるようなことで、理約束はせず、期待を持たせすぎないようにし、落ち度があもわかりやすい内容ですぐにでも参考にしたい講演でした。

「保育園、認定こども園の安全対策研修」

平成三十年六月二十六日に日本丸訓練センター第一・二教室にて、「保育園、認定こども園の安全対策研修」というテーマで東京都市大学客員教授、一般社団法人子ども安全計画研究所代表理事 猪熊弘子先生を講師にお招きし研修会が開催されました。

当日は暑い中、百十三名という多数の参加となり、安全対策の関心の高さがうかがえました。猪熊先生の子育て経験やジャーナリストとしての視点は、受講された先生たちにも、とても聞きやすく和やかな雰囲気で行われました。

まず初めに、保育の「質」を守るためにもっとも大切な「配置基準」では、世界の「配置基準」と比べ日本の現状、児童の配置基準が世界でも過酷な現状を踏まえ「ただ見ているだけ」「ただ席に座らせておくだけ」

が不可欠であることを話していただき、保育士のキャリアアップの必要性を再認識しました。

安全に保育するためにでは

重大事故を事例にとり「四分の生存率」「ヒヤリハットでパターンを理解」、「事故は起こるものではなく起こさないようにするもの」について実例を踏まえ丁寧に説明していただきました。実際の事故事例を聞くことで、保育事故の怖さを知り、

と共に成長することの大しさを確認しました。



「保育施設」での死亡事故の現状から「食う」「寝る」「水遊び」の保育時における危険性を話していくとき、午睡中の事故では、あくまでお昼寝という視

故について知り、正しい知識を知ることで事故を起さない

保育の必要性を考えることが出来ました。強制、矯正ではなく

く共生することで子どもの興味を引き、声や耳を傾けること

で事故が格段に減る安全な保育についてお話をいただき保

育士だけではなく子どもたちと共に成長することの大しさを確認しました。

組織の安全を守るために何が必要かを考え、職員一人一人

が自ら考え、動くこと、動ける環境にすることは「スイスチーズモデル」穴（事故原因）が重

ならないように「価値観が違う」ことはとても良いこと、逆に穴がそろつてしまつた時にこそ、事故や失敗について注意して

重大事故につながらないよう

にすることが大事、ダメダメばかりではなく職員自ら考え、意見を言える職場であることが必要です。コンプライアンスとガバナンスの重要性とマニユアルの定期的な改善をすると

点から、明るい部屋で寝かせる。

水の事故では「人が溺れるとき

は静かに溺れる」など事故事例とともに教えていただきまし

た。新しい保育指針・教育要領のなかの安全について読み解

き、成長の目安である十の姿につてもお話をいただきまし

た。

守るために必要な八つのチエ

ック事項について話していく

だき、今後に向けたたくさんのご教示をいただいた研修会でした。

最後に「良い保育の実践と安

全の両立のために考えたいこ

と」では、プラツク活動園にな

らないように、狭い場所に閉じ込めて安全を確保するのでは

なく、子どもたちの発達を保障し、学びのある保育をすること

で、おのずと子どもの命を守ることにつながる。子どもの命を

